

# 川崎校区 地域振興計画

《住みやすい川崎校区の未来へ向かって》



平成28年3月

川崎校区まちづくり協議会

# 目 次

## 第1章 はじめに

- 1. 計画策定の趣旨 . . . . . 1

## 第2章 校区の概況

- 1. 位置・地勢 . . . . . 2
- 2. 沿革 . . . . . 2・3
- 3. 人口等の動向 . . . . . 4
- 4. 川崎校区行政区域 . . . . . 4

## 第3章 テーマ別の現状と課題等

- 1. 安全・安心の確保（交通安全・防災対策・防犯対策） . . . 5
- 2. 高齢者支援・健康づくり・地域福祉対策 . . . . . 6
- 3. 子育て支援・教育環境対策 . . . . . 6
- 4. 歴史、文化活動・地域コミュニティ対策 . . . . . 7
- 5. 産業の振興（農業・伝統産業）・自然環境対策 . . . . . 7

## 第4章 将来像

- 1. 将来像・基本目標 . . . . . 8

## 第5章 主要施策（実施計画書）

- 1. 安全・安心な生活環境で暮らせるまちづくり . . . . . 9
- 2. ふれあいを大切に健康で育むまちづくり . . . . . 10
- 3. 地域みんなで子育てを支えるまちづくり . . . . . 10
- 4. 伝統文化を継承し地域が助け合うまちづくり . . . . . 11
- 5. 自然豊かな環境と伝統産業を育むまちづくり . . . . . 12

## 付属資料 . . . . . 13～30

- 1. アンケート調査結果
- 2. 川崎校区地域振興計画策定委員名簿

# 第 1 章

# はじめに

## 1. 計画策定の趣旨

私たちが住む川崎校区のどれもが、きれいな空気ときれいな水、そして美しい自然と調和した町並みがあり、人と車が安全に行き交い、高齢者福祉や障がい者福祉、子育て支援などが充実したまちと共に、みんなが助け合っていきいきと暮らせることのできる、住みやすい地域でありたいと願っています。

しかし、少子高齢化が進む中で地域を取り巻く環境や住民のニーズ・価値観等は複雑多岐に渡り、私たちが住む地域社会は時代と共に変化しています。そして、これまで培われてきた人と人とのふれあいや近所づきあいなどは年々希薄になりつつあり、新たな問題・課題も発生しています。さらに、かつて経験したことのない自然災害は多発傾向にあり、犯罪や交通安全問題等についても住民の不安は高まっています。また、高齢者福祉や障がい者福祉、子育て支援・生活環境などに関する様々な問題や課題への対応が求められています。

こうしたことから、地域住民みんなによる地域のための「住みやすいまちづくり」を進めて行くことが、今必要となってきました。

そこで、地域の「まちづくり」活動を維持継続して進めていくためにも、私たち川崎校区住民みずから「地域振興（まちづくり）計画」を策定し、それをもとに協力しあって住み良い地域を目指す活動に取り組んでいくことが大切だと考えます。

今回、「川崎校区まちづくり協議会」の構成団体を中心に策定委員会を設置し、住民アンケート調査と策定委員のみなさんによるワークショップの中から、川崎校区の現状と課題の洗い出しを行い、その解決に向けての取り組み（施策）とその実施時期（短期・中期・長期）、役割分担（住民が行う・行政と協働で行う・行政が行う）などをまとめ、これからの川崎校区全体の羅針盤として「地域振興計画」を策定致しました。

なお、「地域振興計画」の内容については、既に実施している事業や現実的ではないと思われる内容、見過ごしている内容、修正が必要な取り組みなどたくさんあるかと思いますが、川崎校区のみなさんがこの内容を理解していただき、出来ることから活動に取り組んでいただくことを期待します。

川崎校区まちづくり協議会  
川崎校区地域振興計画策定委員会

### 地域振興計画策定に携わった構成団体等

行政区長会	消防団	AFC代表/JA女性部
自治公民館長会	老人クラブ/婦人会	童男山・犬尾城址保存会
主任児童委員・民生委員	川崎小PTA/見崎中PTA	星野川/矢部川を守る会
交通安全協会	川崎小学校/見崎中学校	中部衛生センター公害防止協議会
少年補導員/青少年指導員	いきいきサロン代表	忠見駐在所

## 第2章

## 校区の概況

### 1. 位置・地勢

川崎校区は旧八女市の北東部に位置し、矢部川と星野川の合流地域で、北は広川町、東は旧上陽町と旧黒木町、南は旧立花町に接しています。地形は平坦地（住宅）と丘陵地（農地及び山林）で構成され、交通面では、九州自動車道の八女ICまでのアクセスとして旧矢部線道路（バルビゾン通り）と県道96号線（旧国道442号線）の二つの経路に加え、国道442号バイパスを通る経路も新設されました。また久留米圏内に連絡する県道久留米～立花線は近くを走り、JR在来線の羽犬塚駅や新幹線の筑後船小屋駅へのアクセスにおいては、九州自動車道八女ICへのアクセス道路をそのまま利用することができ、その先国道209号線へと繋がり比較的利便性は高い地域になっています。

このように、地理的条件に恵まれている方ではありますが、地域内では住宅と農地及び山林がほとんどで、他の産業や商業の土地利用が少なく荒廃地や空き地が多く見られます。

一方、地域には山の井公園や童男山古墳等があり、こうした資源を活かした九州オルレ八女コースも設定され、市民をはじめ市外から訪れる人々のふれあいの場となっています。



### 2. 沿革

川崎村は明治22年（1889年）から昭和29年（1954年）まで65年間続いた地方公共団体の村名です。明治22年4月1日、山内村・長野村・北田形村・柳島村の4ヶ村が合併して「川崎村」が誕生しました。

「川崎村」が誕生した時は、人口3,205人・戸数606戸・田111町・畑75町・宅地19町・池沼4町・山林63町・原野51町・雑種地50町でした。

役場は山内の矢部川漁業協同組合のところにありました。その後、昭和29年（1954年）4月1日、福島町・忠見村・岡山村と合併して「八女市」が誕生しました。

## 川崎校区の沿革

西暦	年号	川崎校区の出来事	備考
1814年	文化11年	山内に「川崎塾」を本荘一郎氏が開設。	
1872年	明治5年	川崎小学校創立。	
1874年	明治7年	山内に郵便取扱所が設置される。	
1889年	明治22年4月	山内村・長野村・北田形村・柳島村の4ヶ村が合併して「川崎村」となる。(人口3,205人・606戸)	初代村長に田村順蔵氏が就任
1892年	明治25年2月	福島町に電話交換業務が開始される。	
1893年	明治26年	福島～矢部間の県道が開通。	
1896年	明治29年	八女郡が旧八女市・旧立花町・旧黒木町・旧上陽町・広川町・羽犬塚の24村で施行される。	
1903年	明治36年	羽犬塚～山内間の馬車軌道が敷設。	
1913年	大正2年	福島～三井郡北野町間に電車軌道が敷設。	
1921年	大正10年	矢部川大洪水。	
1945年	昭和20年	国鉄矢部線開通。	
1946年	昭和21年7月	大洪水にて八女地区大被害を受ける。	
1947年	昭和22年	六・三・三の新学制実施によって川崎中学校発足。	
1949年	昭和24年10月	宗教法人「川崎保育園」が開園される。	
1951年	昭和26年3月	川崎中学校と忠見中学校が合併して見崎中学校と改称。	
1953年	昭和28年6月	矢部川で未曾有の大洪水がおきる。	
1954年	昭和29年4月	八女市誕生 福島町・忠見村・岡山村・川崎村。	77町内会
1954年	昭和29年7月	八女地区に警察署設立される。	
1956年	昭和31年7月	山内の童男山古墳が県の史跡文化財に指定される。	
1958年	昭和33年10月	山内の「チシャノキ」天然記念物として県の指定を受ける。	
1961年	昭和36年9月	市内7農協が合併し八女市農業協同組合が発足。	忠見農協は除く
1968年	昭和43年6月	川崎小学校にプール完成。	
1973年	昭和48年11月	高速道路開通（八女インターチェンジ）。	
1976年	昭和51年4月	川崎・忠見・岡山の市出張所を廃止する。	
1980年	昭和55年2月	川崎小学校体育館が完成。	
1985年	昭和60年	国鉄矢部線廃止。	
1988年	昭和63年3月	「柳島の十七夜」市の文化財に指定される。	
2006年	平成18年10月	八女市と上陽町合併。	
2010年	平成22年2月	八女市・立花町・黒木町・矢部村・星野村合併。	
2012年	平成24年7月	九州北部豪雨災害で大水害発生。	
2014年	平成26年12月	山の井公園をスタートに九州オルレ八女コース設定。	

### 3. 人口等の動向

(1) 川崎行政区毎の人口・世帯の推移

各年度の3月31日現在

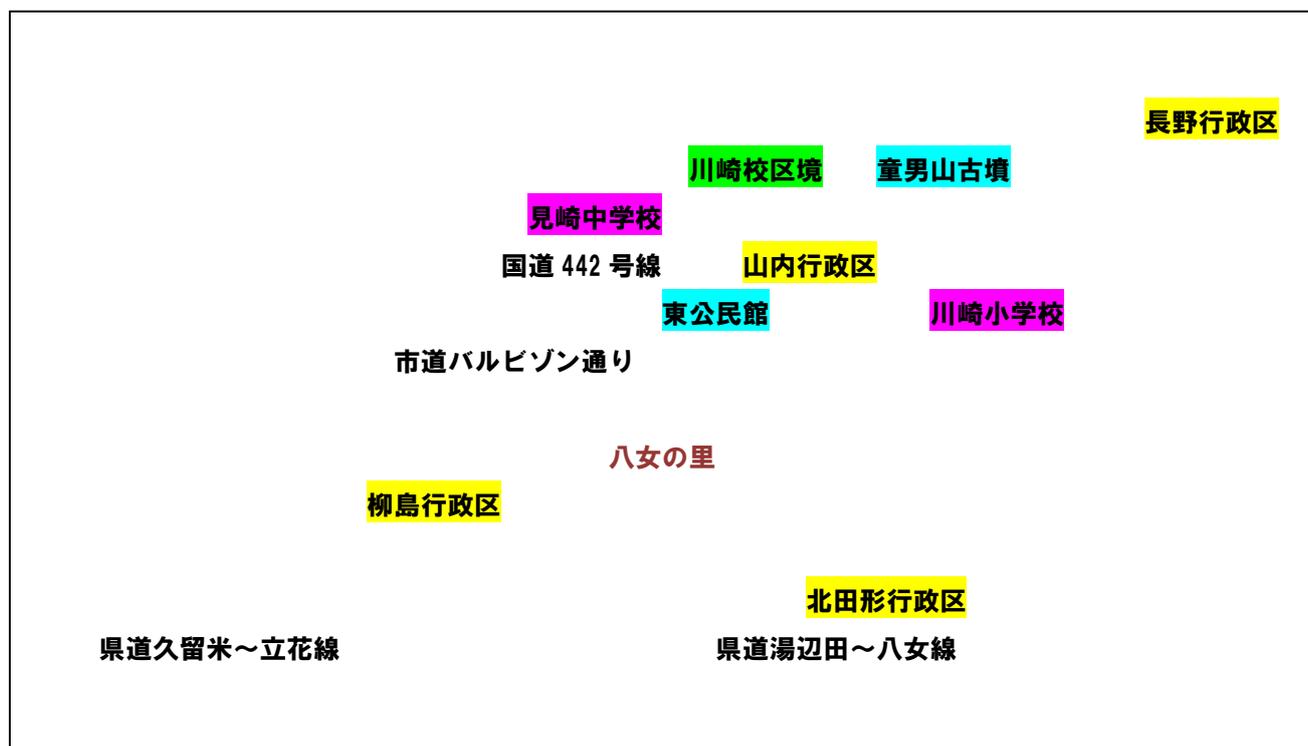
行政区名	平成10年度		平成15年度		平成20年度		平成25年度	
	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯
山内	1,257	339	1,197	342	1,109	338	1,044	352
長野	672	164	641	157	590	157	517	161
北田形	361	78	354	83	291	83	255	79
柳島	696	197	669	194	619	195	580	199
合計	2,986	778	2,861	776	2,609	773	2,396	791

※人口単位（人）／世帯単位（戸）

(2) 八女市人口等の推移

	男（人）	女（人）	合計（人）	世帯数（戸）	備考
平成10年度	18,896	21,019	39,915	11,773	
平成15年度	18,604	20,695	39,299	12,308	
平成20年度	19,914	22,267	42,181	14,369	H18・10 上陽合併
平成25年度	31,769	35,759	67,528	24,213	H22・2 黒木・立花・矢部・星野合併

### 4. 川崎校区行政区域



## 第3章

## テーマ別の現状と課題等

5つのテーマを掲げ、アンケートやワークショップの結果から、川崎校区の現状と課題等を整理しました。

### テーマ1 <<安全・安心の確保（交通安全・防災対策・防犯対策）>>

#### <<交通安全>>

■ 児童生徒が通学路として利用している道路について、交通安全面からと防犯面からの視点で、安全確保と歩きやすい道路の整備が求められています。併せて高齢者や子ども達の安全確保のため、信号機やグリーンベルトの設置など交通安全施設等の整備の声もあります。また、交通安全教育に関する普及啓発もこれまで以上に必要となっています。

#### <<防災対策>>

■ 自然が豊かで災害等も少なく住みやすいと感じている人は多いものの、九州北部豪雨災害では川崎校区管内でも甚大な被害を受け、被災地となったことから住民の防災意識は高まってきています。

こうしたことから九州北部豪雨災害の反省を踏まえ、避難訓練の積極的参加や方法、避難誘導及び避難場所の問題など、住民の避難時における安全確保と不安解消についての対策が求められています。また、人家密集地内で狭い道路が多く、緊急車両の進入が困難な狭い道路や防災上、特に必要な道路は拡幅・改良の整備が求められています。

一方、地域の安全安心は、地域の消防団によって支えられているところが多くありますが、雇用、産業、生活形態の変化と共に団員の確保が困難な状況です。これらの現状を踏まえて新たな仕組みづくりが必要と考えられます。

こうした現況の中、さいわいに川崎全行政区とも自主防災組織が立ちあがっていることから、消防団との連携を一層強化し地域の安全安心を支えるため、地元消防団の補完的役割を担うことが対策のひとつとも考えられます。

#### <<防犯対策>>

■ 人口減少と高齢者世帯の増加、核家族の増加等によって、防犯面での不安を感じる人が多くなりました。

特に駐在所がなくなり、不安を訴える人も多く、子どもを持つ保護者からは不審者への対応や、高齢者に対しては押し売り、詐欺などへの注意喚起など、情報提供や指導の強化と共に地域の防犯体制の強化が求められています。また、安全面及び治安上必要な街灯・防犯灯の設置が要望されています。

## テーマ2 <<高齢者支援・健康づくり・地域福祉対策>>

■ 高齢者が増えると同時に、身体に病気や障がいを持つ老人も増えてくる中、健常者にとっては当たり前のことであっても、高齢者や障がい者にとっては、生活の不便や不安をはじめ地域行事にも出たくても参加できないなど、もどかしさや孤独感など様々な問題、悩みを抱えていることが伺えます。実際、アンケートからも高齢者の関心は健康づくりや買物の不便などの回答が多く、将来の川崎校区については、「高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉のまち」を望む声や、参加したい活動では「健康づくり活動」がそれぞれ一番多い回答となっています。

こうした中、既に健康づくり対策として卓球教室やラジオ体操を行っている地域もあり、健康増進を兼ねた交流の場として大きな意味があると思われれます。そこで、このような優良事例を基に、世代を問わず地域の実情にあわせた健康づくりや居場所づくりの取り組みを全地域へ広める必要があります。また、高齢者の生きがい対策として交流の場の充実や、高齢者の知恵や技術を生かす取り組みの活動と環境づくりが求められています。

一方、八女市社会福祉協議会がすすめる地域福祉活動（福祉部会設置）を「川崎校区まちづくり協議会」で具体的に取り組むことで、地域福祉の核となることが期待できると思われれます。

## テーマ3 <<子育て支援・教育環境対策>>

■ 少子化が進み、川崎小学校の児童数も平成30年には、70名ほどになると予想されています。こうした中、子どもたちを安心して育てられるまちづくりを望む共通の意見は多く聞かれますが、子育て世代の中には、生活の不便さや地域行事などの風習・慣習に対する不満などの理由で、他地区へ転出したいという声もあります。また、子どもたちが地域で安心してのびのびと遊べる場所がないとの指摘もあります。

さらに、子ども会活動など保護者が全て段取りしていることにより、子ども達の自主性や協調性など本来この時期に身につけるべきものを奪っているのではとの懸念も聞かれます。また、子どもにケガをさせないと言う考えから活動が消極的になったり、地域の子ども会が行う廃品回収は、少ない人数で負担になっているため改善が求められています。

このように、ライフスタイルや価値観の変化、核家族化など社会環境が大きく様変わりする中、育児や子育てに関する保護者の心理的・身体的負担は多くの課題を抱えています。

こうしたことから、地域ぐるみの支え合い、助け合いの仕組みづくりや環境づくりが必要となっています。

## テーマ4 <<歴史、文化活動・地域コミュニティ対策>>

■ 各行政区とも、地域資源として受け継がれてきた伝統行事や歴史遺産を共有財産として保存に努める一方で、地域交流行事についてもそれぞれ行政区の特色ある文化として形成、継承されてきています。しかし、こうした伝統行事や歴史遺産、地域交流行事等に対する住民の理解や認識に温度差があることの指摘や、若い人にとっては負担と感じるといった声も聞かれます。

しかし、伝統行事や歴史遺産、地域交流行事の継承や保存を通して地域コミュニティの役割を果たしている一面もあることから、今後、伝統行事や歴史遺産、地域交流行事等について、一人ひとりが目的等を理解できる啓発活動の取り組みが急務となっており、その上で地域の歴史遺産を知り地域の魅力を再発見するとともに、世代間の交流と同年代毎の交流をいかに進めるか、また若い世代の負担軽減を考慮しつつ、地域に入りやすい環境づくり(見直し・合理化)、並びに連携・協力の仕組みづくりが必要となっています。

そして、各行事等を通して地域コミュニティの再構築に向けた、地域住民相互の交流と理解を深めるための取り組みが求められています。

## テーマ5 <<産業の振興(農業・伝統産業)・自然環境対策>>

■ アンケートによる住民の住みよさの意識は「自然環境に恵まれている」が圧倒的に多く、それを反映するように川崎校区は、農地と山林が広がり、矢部川、星野川の恵みを受けた自然豊かな地域で、茶を主体とした農業と地場産業として石灯籠の伝統工芸が息づく地域となっています。昔は商業の盛んな村で昭和初期ごろの山内は、各商店が軒並みにあり何でも揃う賑わいのある地域であったとされています。しかし今では、時代とともに一変して閑散となっています。一方農業面では、取り巻く状況が厳しいことから後継者が減り農業従事者の高齢化が進んでいます。それと同時に山林、水田、畑等の耕作放棄地も多くなっています。もとより、農地の基盤整備が十分ではなく、農道も狭いなど近代的な農業を営むには厳しい地域のため、魅力がない、楽しみがないなどの意見も聞かれ、後継者も育ちにくく、特に若い女性の働く環境の整備が不十分との指摘もあります。

こうした中、農業については女性を含む若い世代が安心して農業を営むことができる体制の整備と、農産物の地産地消だけでなく、加工による商品開発をはじめとして、農業経営の若手リーダーや後継者の育成により、活気のある地域づくりが求められています。また、産業についても、地域資源を生かした伝統産業の維持と保全に努め、販売先の拡大による経営の安定を図り、技術の継承に努めていく必要があり、農産物と伝統工芸品の販売について、九州オルレ八女コースを活用した新たな取組みも考えられます。

一方、恵まれた天然資源と豊かな自然環境や景観を守ることは、地域の産業を守り人々を癒す土台となることから、後世に継承していくことが大事で、そのためポイ捨てや野焼き等の防止と清掃や美化活動などの取り組みも更に求められています。

## 第4章

## 将来像

アンケート及びワークショップの結果から、川崎校区の現状と課題をテーマ毎に整理し、それを踏まえ川崎校区のまちづくりの将来像を表す言葉を導き出しました。そして、将来像を具体的に展開するために、5つの基本目標を掲げました。

### 将来像

共に助け合い支え合い 安心して住める 安全なまちづくり

### 基本目標

①

安全・安心な生活環境で暮らせるまちづくり

- ◆交通安全対策
- ◆防災対策
- ◆防犯対策

②

ふれあいを大切に健康で育むまちづくり

- ◆高齢者支援
- ◆健康づくり
- ◆地域福祉対策

③

地域みんなで子育てを支えるまちづくり

- ◆子育て支援
- ◆教育環境対策

④

伝統文化を継承し地域が助け合うまちづくり

- ◆歴史・文化活動
- ◆地域コミュニティ対策

⑤

自然豊かな環境と伝統産業を育むまちづくり

- ◆産業の振興  
(農業・伝統産業)
- ◆自然環境対策

## 第5章

## 主要施策（実施計画書）

川崎校区の将来像を実現するため、「現状・課題等」から抽出した課題・問題点を分析し、考えられる解決策（具体的取り組み）として、次のような主要施策（実施計画書）をまとめ示しています。

### ① 安全・安心な生活環境で暮らせるまちづくり

テーマ	主要施策		実施主体			実施時期		
	課題・問題点	解決策（具体的取組み）	住民	協働	行政	短期	中期	長期
交通安全対策	児童生徒の通学路が交通安全面と防犯の面から、また高齢者にとっても危険箇所の道路があるため、安全確保と安全教育の啓発などの対策が必要となっている。	①危険箇所の道路や信号機及びグリーンベルト等の設置を調査し、関係機関へ要望していく。	○			○		
		②登下校時の交通安全見守り体制の拡大	○			○		
		③交通安全教室（講習会）開催		○		○		
防災対策	時として起こる自然災害等に対し、避難指示をはじめ避難誘導及び避難場所等について、住民の安全確保と不安解消対策が必要。また、緊急車両が容易に通行できる道路の整備が必要となっている。	①避難・誘導訓練（小地域単位での訓練）	○			○		
		②要援護者等への連絡網体制の確立	○			○		
		③避難場所・経路マップづくり	○			○		
		④避難場所等の看板設置と周知徹底	○			○		
		⑤緊急時及び防災上の安全な道路の確保と整備（拡幅・改良）			○			○
	地域の安全安心は、地域の消防団と地域の自主防災組織に支えられていることから、人材確保と組織運営の充実と連携が必要となっている。	①新入団員の積極的勧誘	○			○		
	②OB団員との連携強化	○			○			
	③消防団と自主防災組織の連携強化と育成	○			○			
防犯対策	子どもから高齢者まで、全ての地域住民が犯罪に遭遇しないよう、予防対策及び防犯体制の強化が必要となっている。	①声かけ運動の実施	○			○		
		②見回り隊の組織化	○				○	
		③情報提供（町内掲示板の活用）		○			○	
		④防犯講習会の開催		○		○		
		⑤防犯灯（LED照明）の設置		○		○		

## ② ふれあいを大切に健康で育むまちづくり

テーマ	主要施策		実施主体			実施時期		
			住 民	協 働	行 政	短 期	中 期	長 期
	課題・問題点	解決策（具体的取組み）						
高齢者支援・健康づくり・地域福祉対策	<p>校区の人口は年々減少し、高齢化が一段と進む中で高齢者は買物や居場所、健康問題など様々な困り事や不安を感じる状況が発生している。</p> <p>こうしたことから高齢者・障がい者を地域で支え、元気にする対策が求められている。</p> <p>また、八女市社会福祉協議会がすすめる「福祉部会」の設置が必要となっている。</p>	①買物支援(コンビニなど民間事業者との連携)	○					○
		②グラウンドゴルフ場の設置	○				○	
		③憩いの場(公園)の整備		○			○	
		④情報交換・交流の場として、小地域でのいきいきサロンの展開	○			○		
		⑤小地域でのラジオ体操実施	○			○		
		⑥卓球教室の開催	○				○	
		⑦高齢者の経験を活かした活動(わらじ作り、しめ縄作り他)	○				○	
		⑧福祉部会の設置(小地域福祉ネットワーク活動の展開)		○		○		

## ③ 地域みんなで子育てを支えるまちづくり

テーマ	主要施策		実施主体			実施時期		
			住 民	協 働	行 政	短 期	中 期	長 期
	課題・問題点	解決策（具体的取組み）						
子育て支援・教育環境対策	<p>校区の児童数が減る中で、近年ライフスタイルや価値観の変化、核家族化など、育児や子育てに関する環境は大きく様変わりしている。そのため、保護者の心理的、身体的及び経済的負担など多くの課題を抱えている。</p> <p>そこで地域が一体となった支援が必要となっている。</p>	①行政支援の現状を調査し、充実に向けた要請の検討	○				○	
		②まちづくり協議会が主体的に取り組む、ウォークラリーやハイキングの開催	○			○		
		③地域で支える小学校運動会		○		○		
		④地域住民が参加する授業参観(小学校・中学校)		○			○	
		⑤高齢者・地域住民と子どもの交流(ふれあい合宿・オルレの活用ほか)		○			○	
		⑥子どもの防犯、見守り活動(安全の確保、下校時・その他)	○				○	
		⑦安全ハウスの周知徹底と啓発活動	○			○		
		⑧子ども会廃品回収の支援	○			○		

#### ④ 伝統文化を継承し地域が助け合うまちづくり

テーマ	主要施策		実施主体			実施時期			
	課題・問題点	解決策（具体的取組み）	住民	協働	行政	短期	中期	長期	
歴史、文化活動・地域コミュニティ対策	<p>各行政区に残る歴史遺産や伝統行事及び地域交流行事等は、地域で保存継承に努力が続けられているものの、住民の理解や認識に温度差があり、高齢化社会が進む中で、特に若者が負担と感じている。</p> <p>しかし、伝統行事や地域交流行事を通して地域コミュニティが保たれていることから、保存、継承を前提に地域住民の理解と協力が得られる運営が必要となっている。</p> <p>また、受け継いだ地域資源や行事等の充実と、新たな取り組みを通じて、人と人のつながりを保ち、共に助け合う気運を高める取り組みが求められている。</p>	①歴史遺産、伝統行事、地域交流行事等の継承（見直し・合理化）と地域住民への啓発活動（理解と協力）	○			○			
		②地域資源の整備と行政支援要請							
		・打保田公園の整備		○		○			
		・山の井公園の整備（オルレコース）		○				○	
		・犬尾城址の整備（オルレコース）		○				○	
		・童男山古墳の整備（オルレコース）		○				○	
		・ウォーキング道路の整備		○					○
		・その他		○					○
		③校区観光マップ作成							
				○				○	
		④校区観光案内板の設置							
				○				○	
		⑤地域交流事業							
		・グラウンドゴルフ大会		○			○		
		・ミニソフトバレー大会		○			○		
		・校区ふれあいフェスタ（もちつき大会・校区文化祭等）		○			○		
		⑥地域住民の居場所づくり							
		・井戸端会議ができる公民館		○			○		
		・一休みできる空間の新設（木陰・椅子が必要）			○			○	
		⑦世代間交流の推進							
・男の料理教室の充実		○			○				
・趣味の会（サークル活動）		○				○			
・ふれあい交流会（仮称）（高齢者の知恵や得意分野を継承）		○			○				

## ⑤ 自然豊かな環境と伝統産業を育むまちづくり

テーマ	主要施策		実施主体			実施時期		
			住民	協働	行政	短期	中期	長期
	課題・問題点	解決策（具体的取組み）						
産業の振興（農業・伝統産業）・自然環境対策	<p>農地と山林が広がり、矢部川、星野川など自然が身近にある地域で、農業と石灯笼等の伝統工芸が基幹産業として受け継がれてきたが、経済の変化や少子高齢化等に伴い、農業後継者や伝統工芸の後継者は減少し、それぞれの従事者は今後ますます高齢化が進み、農業や伝統産業を取り巻く環境は一段と厳しくなることが予想される。</p> <p>こうしたことから、農業経営の効率化を図るため、農地の集積化を促すとともに、大規模農業経営の法人化を進め、後継者育成と併せて団塊の世代及び女性が、もっと主体的に取組める環境や制度の整備が求められている。</p> <p>また、地域の特徴を活かした特産品づくりと、消費者ニーズにあった商品開発と販売の研究が急がれる。</p> <p>一方、恵まれた自然と資源を後世に残していくためにも、環境保全・美化に取り組むことが必要となっている。</p>	①農地圃場整備及び大型機械導入の支援要請		○			○	
		②川崎ブランド農産物と加工品開発と販売に向けた支援要請		○			○	
		③法人農事組合の設立	○				○	
		④後継者育成事業の要請		○			○	
		⑤貸し農園の推進	○				○	
		⑥校区内での移動（軽トラック等）農産物直売	○				○	
		⑦農産物・伝統工芸品直売所の開設		○			○	
		⑧オルレコースのおもてなし活動と農産物・伝統工芸品等の直売						
		・湯茶接待及びお茶の販売	○				○	
		・農産物販売	○				○	
		・石灯笼販売	○				○	
・その他	○					○		
⑨野焼き、空き缶ポイ捨て、犬のフン処理などチラシ、看板等でモラル向上の啓発活動	○				○			
⑩道路・山林道・河川等の清掃（草刈りほか）実施	○				○			
⑪花いっぱい運動	○				○			

# 付 属 資 料

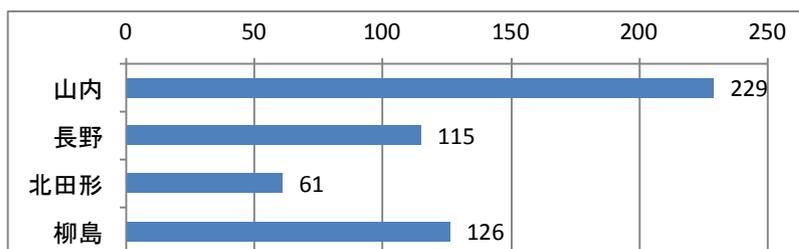
1. アンケート調査結果
2. 川崎校区地域振興計画策定委員名簿

# 川崎校区まちづくりアンケート集計<<全地区合計>>

平成27年1月実施

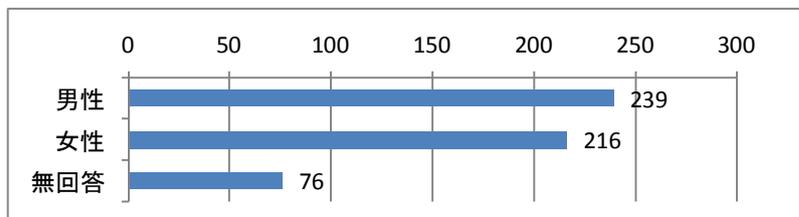
## <<行政区別回収数>>

行政区名	回収数	割合
山内	229	43.1%
長野	115	21.7%
北田形	61	11.5%
柳島	126	23.7%
合計	531	100.0%



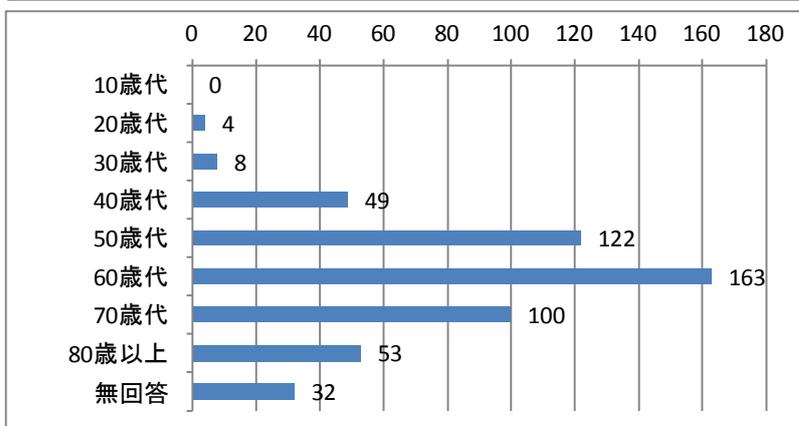
## <<性別>>

項目	回答数	割合
男性	239	45.0%
女性	216	40.7%
無回答	76	14.3%
合計	531	100.0%



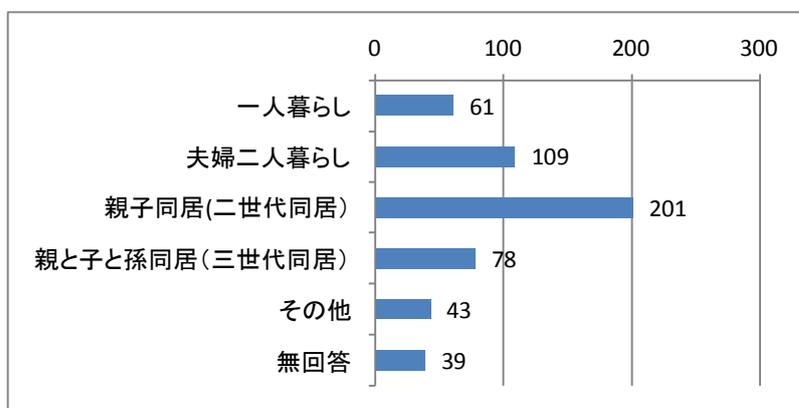
## <<年齢>>

項目	回答数	割合
10歳代	0	0.0%
20歳代	4	0.8%
30歳代	8	1.5%
40歳代	49	9.2%
50歳代	122	23.0%
60歳代	163	30.7%
70歳代	100	18.8%
80歳以上	53	10.0%
無回答	32	6.0%
合計	531	100.0%



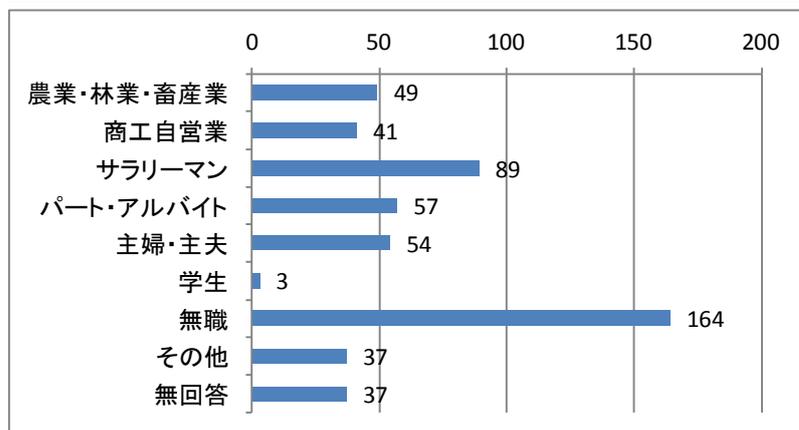
## <<家族構成>>

項目	回答数	割合
一人暮らし	61	11.5%
夫婦二人暮らし	109	20.5%
親子同居(二世 代同居)	201	37.9%
親と子と孫同居 (三世同居)	78	14.7%
その他	43	8.1%
無回答	39	7.3%
合計	531	100.0%



## <<職業>>

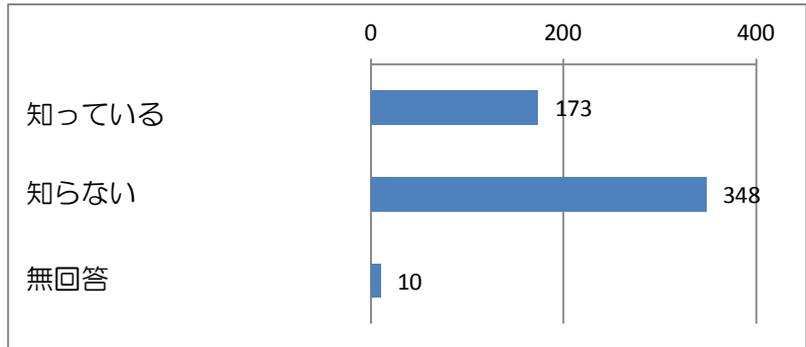
項目	回答数	割合
農業・林業・畜産業	49	9.2%
商工自営業	41	7.7%
サラリーマン	89	16.8%
パート・アルバイト	57	10.7%
主婦・主夫	54	10.2%
学生	3	0.6%
無職	164	30.9%
その他	37	7.0%
無回答	37	7.0%
合計	531	100.0%



### 問 1

あなたは「川崎校区まちづくり協議会」の存在を知っていますか。

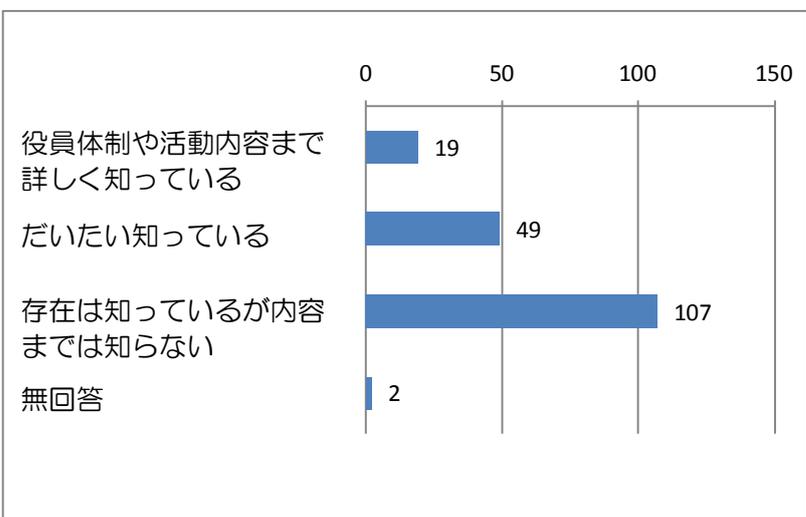
項目	回答数	割合
知っている	173	32.6%
知らない	348	65.5%
無回答	10	1.9%
合計	531	100.0%



### 問 2

問1で「知っている」と回答した方にお聞きします。

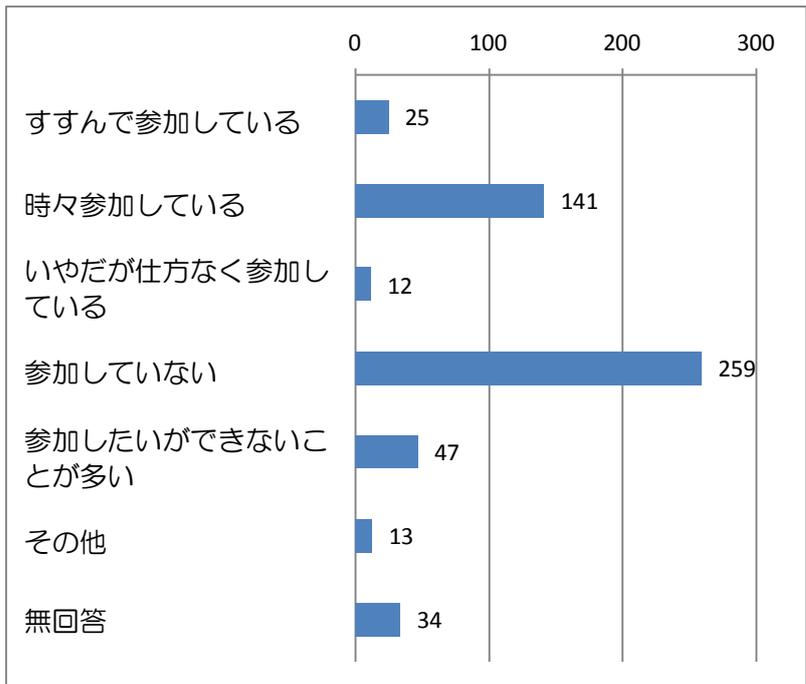
項目	回答数	割合
役員体制や活動内容まで詳しく知っている	19	10.7%
だいたい知っている	49	27.7%
存在は知っているが内容までは知らない	107	60.5%
無回答	2	1.1%
合計	177	100.0%



### 問 3

あなたは「川崎校区まちづくり協議会」の活動や地域における様々な活動や行事に参加されていますか。

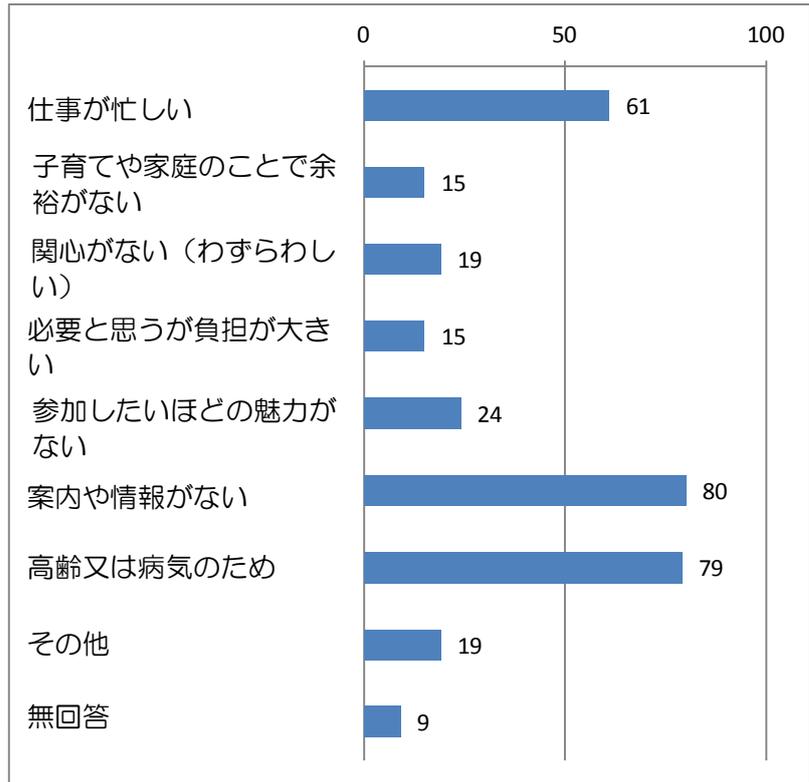
項目	回答数	割合
すすんで参加している	25	4.7%
時々参加している	141	26.6%
いやだが仕方なく参加している	12	2.3%
参加していない	259	48.8%
参加したいができないことが多い	47	8.9%
その他	13	2.4%
無回答	34	6.4%
合計	531	100.0%



#### 問 4

問3で「参加していない」「参加したいができないことが多い」と回答された方にその理由をお聞きします。

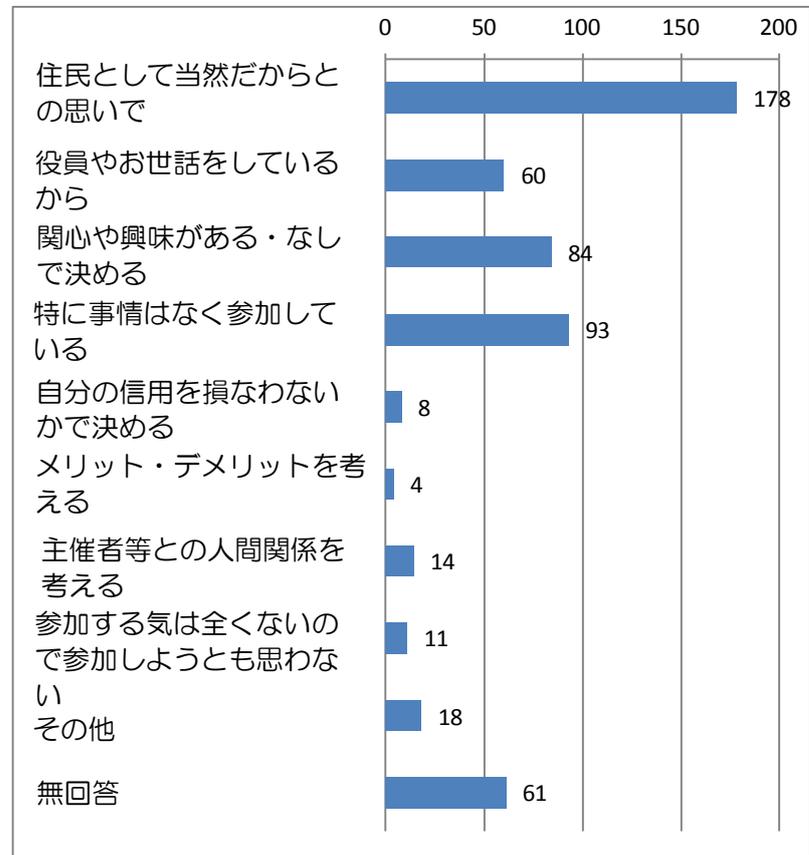
項目	回答数	割合
仕事が忙しい	61	19.0%
子育てや家庭のことで余裕がない	15	4.7%
関心がない（わずらわしい）	19	5.9%
必要と思うが負担が大きい	15	4.7%
参加したいほどの魅力がない	24	7.5%
案内や情報がない	80	24.9%
高齢又は病気のため	79	24.6%
その他	19	5.9%
無回答	9	2.8%
合計	321	100.0%



#### 問 5

あなたは地域の行事や活動に参加する場合どのような思いで決めていますか。

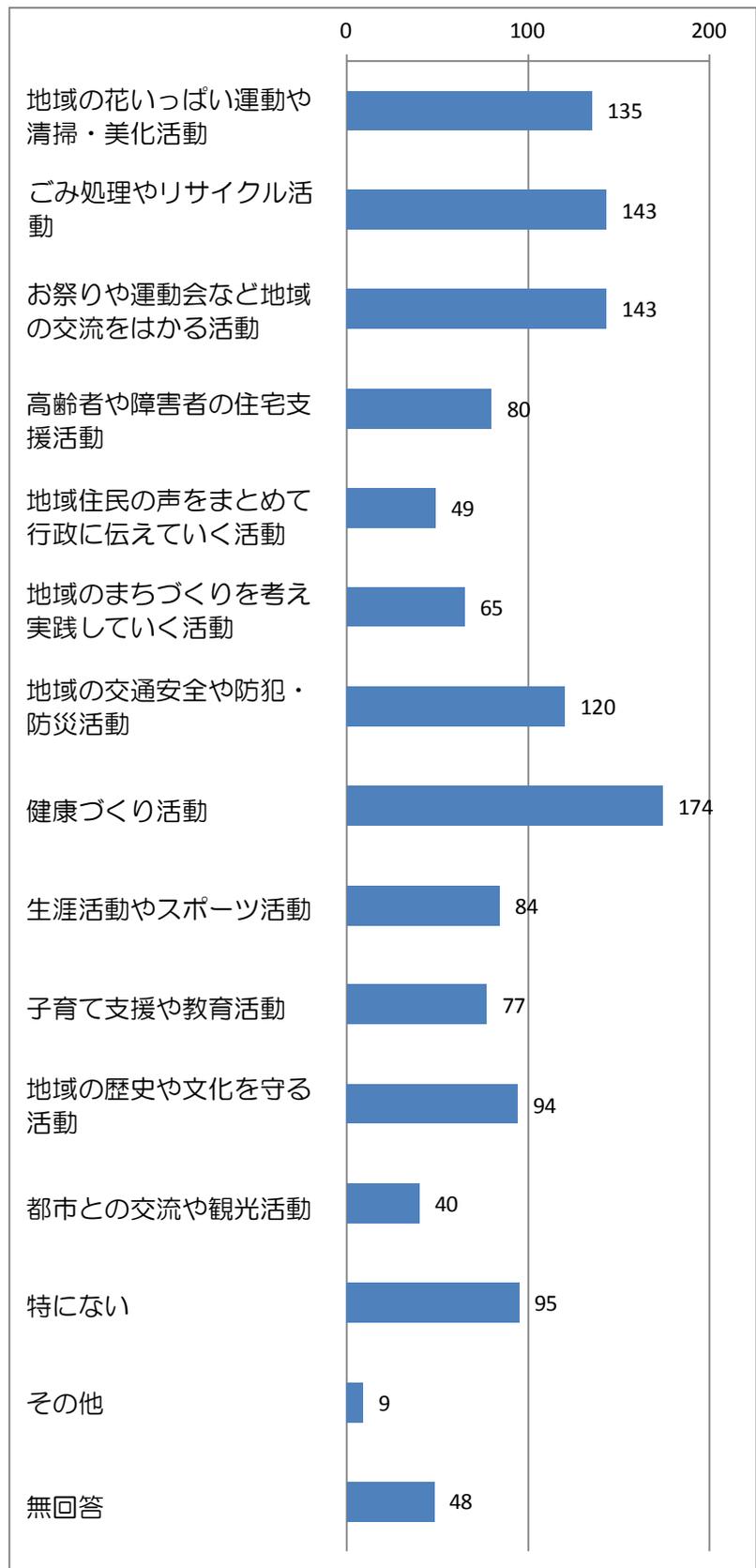
項目	回答数	割合
住民として当然だからとの思い	178	33.5%
役員やお世話をしているから	60	11.3%
関心や興味がある・なしで決める	84	15.8%
特に事情はなく参加している	93	17.5%
自分の信用を損なわないかで決める	8	1.5%
メリット・デメリットを考える	4	0.8%
主催者等との人間関係を考える	14	2.6%
参加する気は全くないので参加しようとも思わない	11	2.1%
その他	18	3.4%
無回答	61	11.5%
合計	531	100.0%



## 問 6

あなたが参加したいと思う活動は。

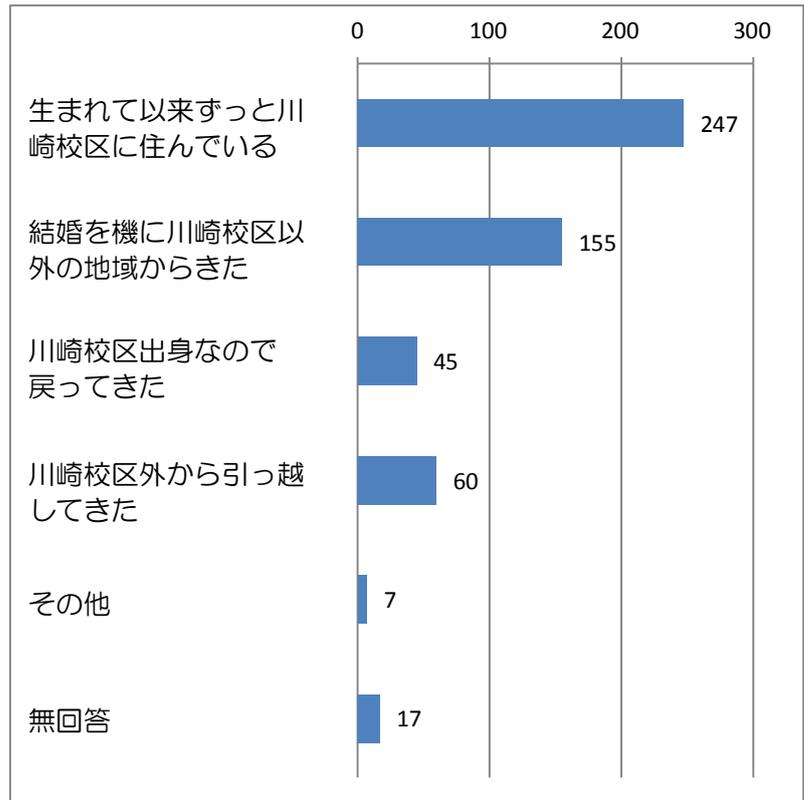
項目	回答数	割合
地域の花いっぱい運動や清掃・美化活動	135	10.0%
ごみ処理やリサイクル活動	143	10.5%
お祭りや運動会など地域の交流をはかる活動	143	10.5%
高齢者や障害者の住宅支援活動	80	5.9%
地域住民の声をまとめて行政に伝えていく活動	49	3.6%
地域のまちづくりを考え実践していく活動	65	4.8%
地域の交通安全や防犯・防災活動	120	8.8%
健康づくり活動	174	12.8%
生涯活動やスポーツ活動	84	6.2%
子育て支援や教育活動	77	5.7%
地域の歴史や文化を守る活動	94	6.9%
都市との交流や観光活動	40	2.9%
特にない	95	7.0%
その他	9	0.7%
無回答	48	3.5%
合計	1,356	100.0%



## 問 7

住まいの状況についてお尋ねします。

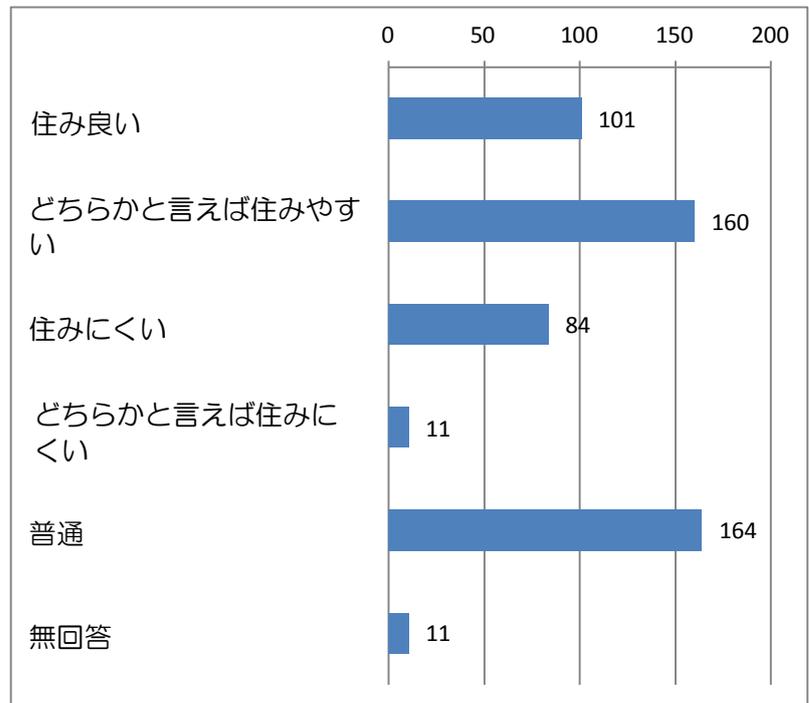
項目	回答数	割合
生まれて以来ずっと川崎校区に住んでいる	247	46.5%
結婚を機に川崎校区以外の地域からきた	155	29.2%
川崎校区出身なので戻ってきた	45	8.5%
川崎校区外から引っ越してきた	60	11.3%
その他	7	1.3%
無回答	17	3.2%
合計	531	100.0%



## 問 8

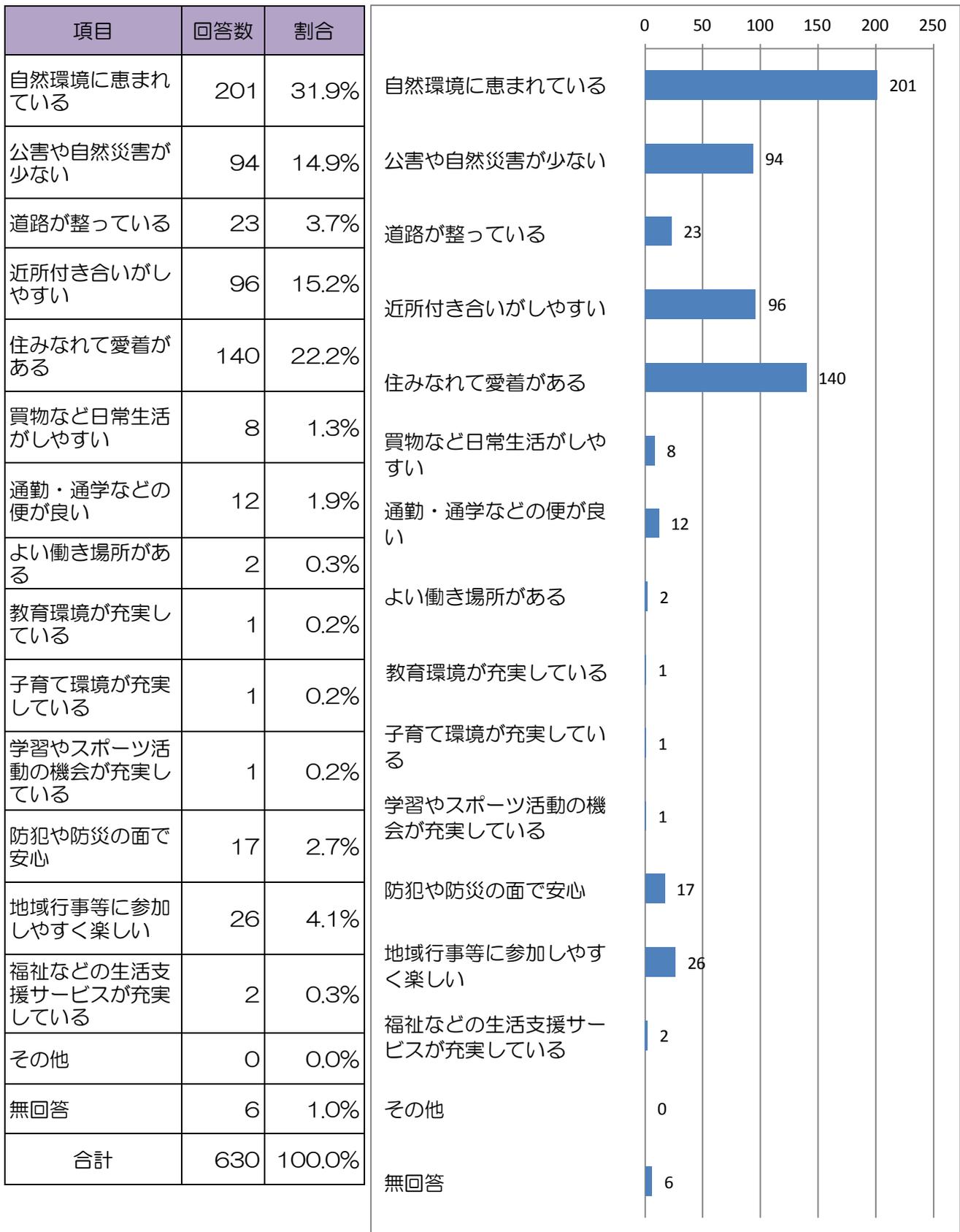
あなたは川崎校区を住み良いまちと思いますか。

項目	回答数	割合
住み良い	101	19.0%
どちらかと言えば住みやすい	160	30.1%
住みにくい	84	15.8%
どちらかと言えば住みにくい	11	2.1%
普通	164	30.9%
無回答	11	2.1%
合計	531	100.0%



問 9

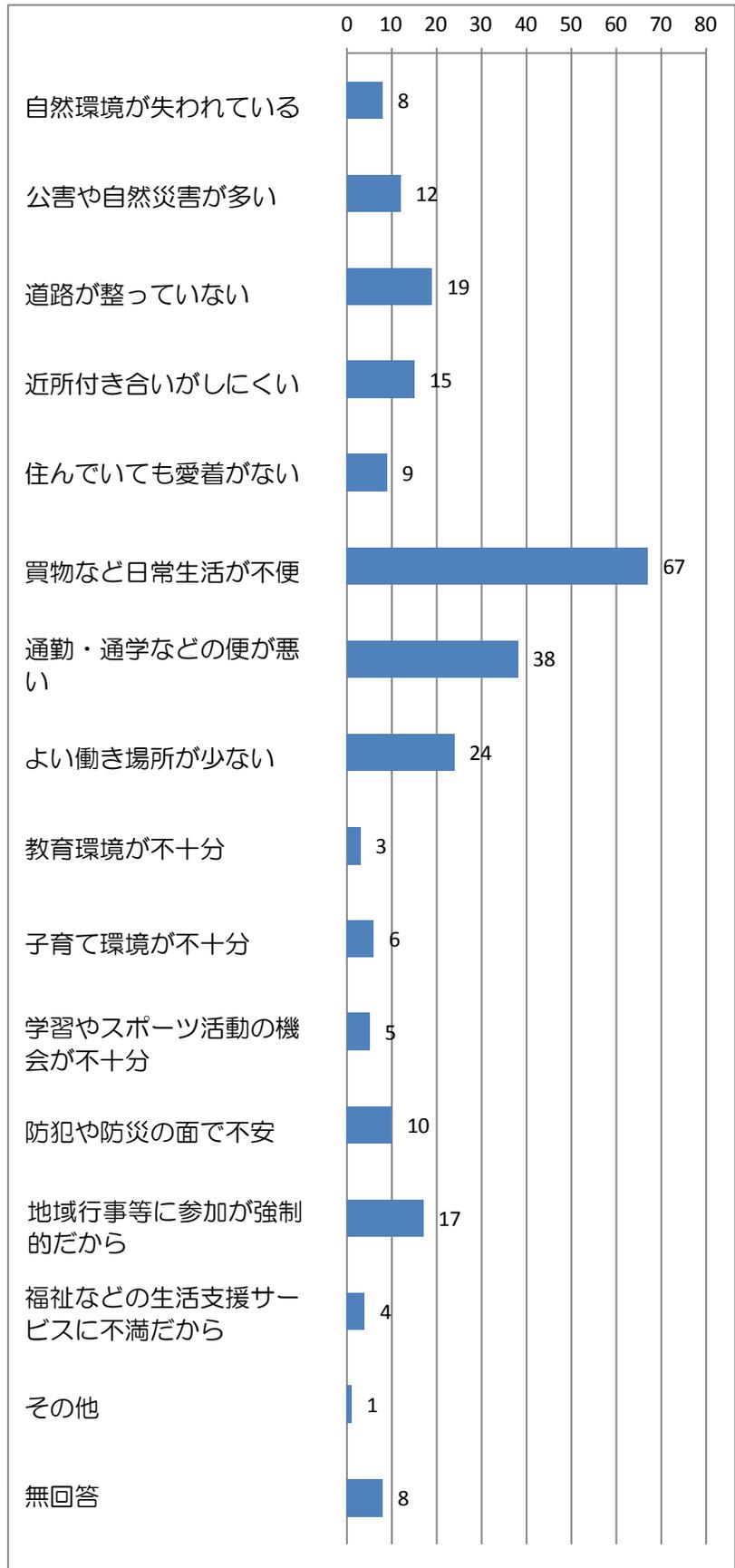
問8で「住み良い」「どちらかと言えば住みやすい」と回答された方にその理由をお尋ねします。



問 10

問8で「住みにくい」「どちらかと言えば住みにくい」と回答された方にその理由をお尋ねします。

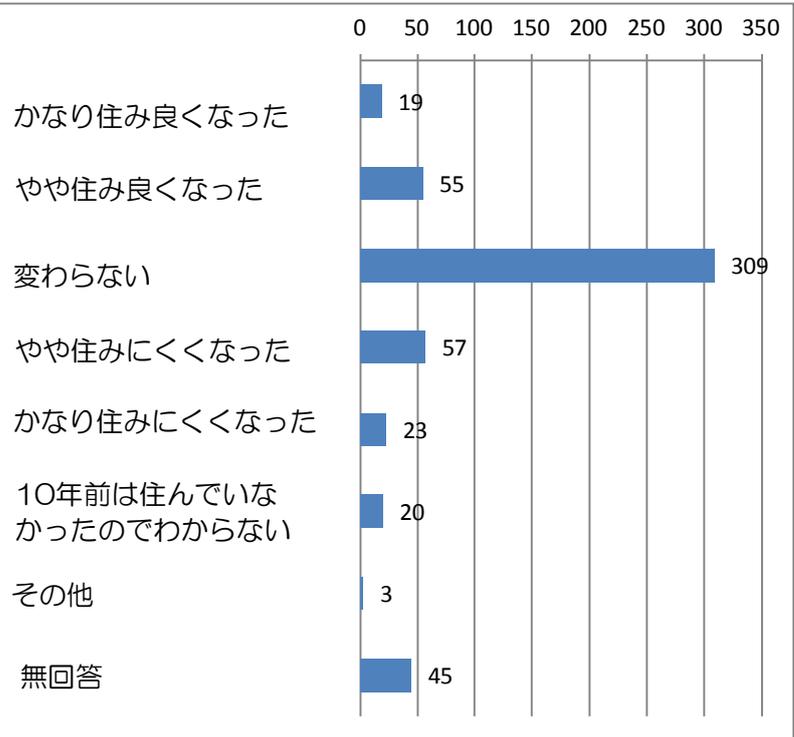
項目	回答数	割合
自然環境が失われている	8	3.3%
公害や自然災害が多い	12	4.9%
道路が整っていない	19	7.7%
近所付き合いがしにくい	15	6.1%
住んでいても愛着がない	9	3.7%
買物など日常生活が不便	67	27.2%
通勤・通学などの便が悪い	38	15.4%
よい働き場所が少ない	24	9.8%
教育環境が不十分	3	1.2%
子育て環境が不十分	6	2.4%
学習やスポーツ活動の機会が不十分	5	2.0%
防犯や防災の面で不安	10	4.1%
地域行事等に参加が強制的だから	17	6.9%
福祉などの生活支援サービスに不満だから	4	1.6%
その他	1	0.4%
無回答	8	3.3%
合計	246	100.0%



## 問 11

川崎校区は以前（10年前）と比べて住み良いまちになりましたか。

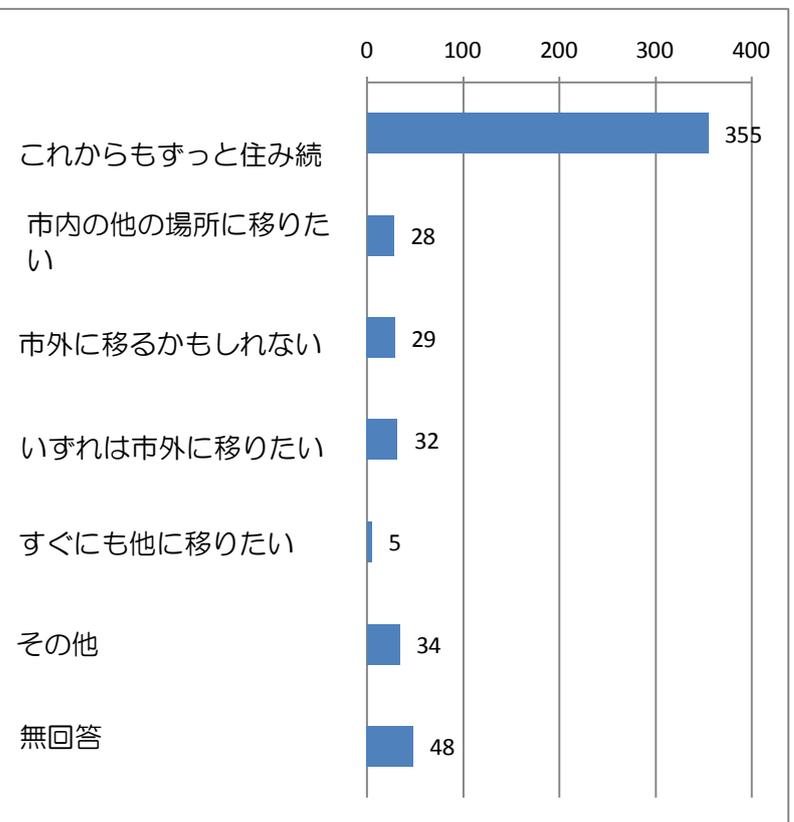
項目	回答数	割合
かなり住み良くなった	19	3.6%
やや住み良くなった	55	10.4%
変わらない	309	58.2%
やや住みにくくなった	57	10.7%
かなり住みにくくなった	23	4.3%
10年前は住んでいなかったのだからわからない	20	3.8%
その他	3	0.6%
無回答	45	8.5%
合計	531	100.0%



## 問 12

あなたは今お住まいのところに住み続けたいですか。

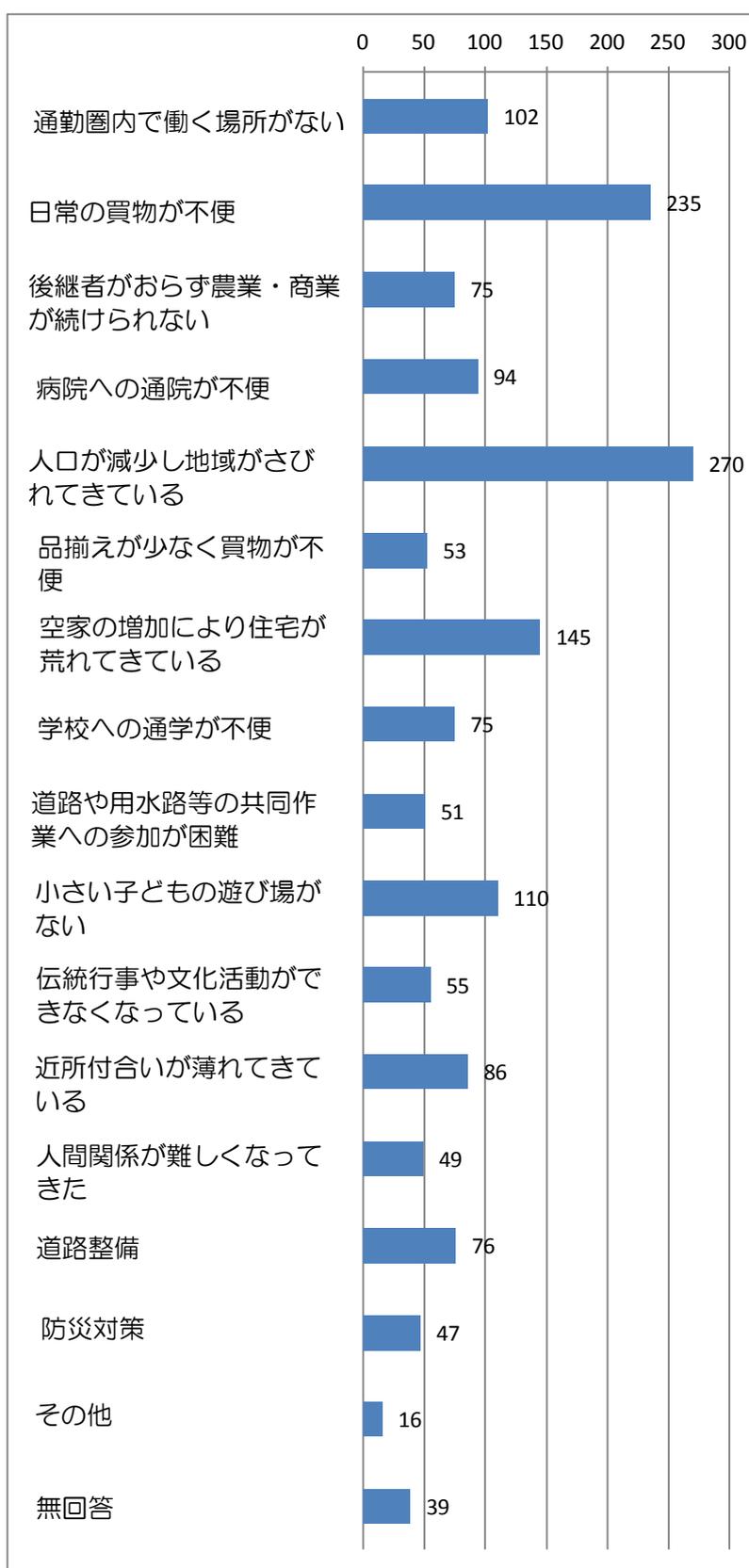
項目	回答数	割合
これからもずっと住み続けたい	355	66.9%
市内の他の場所に移りたい	28	5.3%
市外に移るかもしれない	29	5.5%
いずれは市外に移りたい	32	6.0%
すぐにも他に移りたい	5	0.9%
その他	34	6.4%
無回答	48	9.0%
合計	531	100.0%



### 問 13

川崎校区で生活を維持する上で、不便や不安を感じることは何ですか。

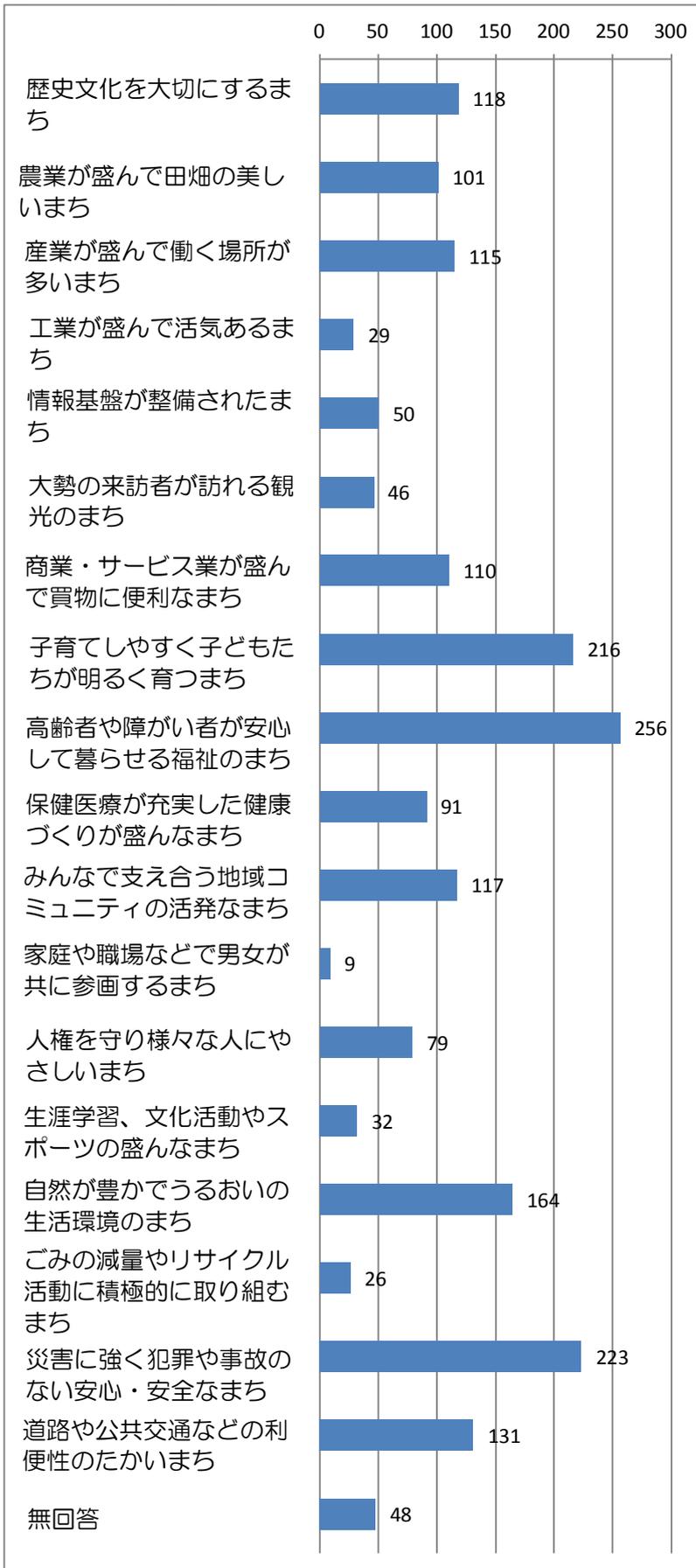
項目	回答数	割合
通勤圏内で働く場所がない	102	6.5%
日常の買物が不便	235	14.9%
後継者がおらず農業・商業が続けられない	75	4.8%
病院への通院が不便	94	6.0%
人口が減少し地域がさびれてきている	270	17.1%
品揃えが少なく買物が不便	53	3.4%
空家の増加により住宅が荒れてきている	145	9.2%
学校への通学が不便	75	4.8%
道路や用水路等の共同作業への参加が困難	51	3.2%
小さい子どもの遊び場がない	110	7.0%
伝統行事や文化活動ができなくなっている	55	3.5%
近所付き合いが薄れてきている	86	5.4%
人間関係が難しくなってきた	49	3.1%
道路整備	76	4.8%
防災対策	47	3.0%
その他	16	1.0%
無回答	39	2.5%
合計	1,578	100.0%



問 14

あなたは将来の川崎校区をどのようなまちにしたいですか。

項目	回答数	割合
歴史文化を大切に するまち	118	6.0%
農業が盛んで田畑 の美しいまち	101	5.2%
産業が盛んで働く 場所が多いまち	115	5.9%
工業が盛んで活気 あるまち	29	1.5%
情報基盤が整備さ れたまち	50	2.5%
大勢の来訪者が訪 れる観光のまち	46	2.3%
商業・サービス業 が盛んで買物に便 利なまち	110	5.6%
子育てしやすく子 どもたちが明るく 育つまち	216	11.0%
高齢者や障がい者 が安心して暮らせ る福祉のまち	256	13.1%
保健医療が充実し た健康づくりが盛 んなまち	91	4.6%
みんなで支え合う 地域コミュニティ の活発なまち	117	6.0%
家庭や職場などで 男女が共に参画す るまち	9	0.5%
人権を守り様々な 人にやさしいまち	79	4.0%
生涯学習、文化活 動やスポーツの盛 んなまち	32	1.6%
自然が豊かでうる おいの生活環境の まち	164	8.4%
ごみの減量やリサ イクル活動に積極 的に取り組むまち	26	1.3%
災害に強く犯罪や 事故のない安心・ 安全なまち	223	11.4%
道路や公共交通な どの利便性のたか いまち	131	6.7%
無回答	48	2.4%
合計	1,961	100.0%



## 川崎校区まちづくりアンケート調査自由意見

**問 6** あなたが参加したいと思う活動は。

その他の欄に書かれた意見

性別	年代	意見
男性	60歳代	◆校区(行政区)として何を重点にやっていくか、議論があまりないのではないか。
不明	70歳代	◆町内の環境が悪くならない為の活動。
女性	80歳以上	◆身体障がい者が参加できない。

**問 10** 「住みにくい」「どちらかと言えば住みにくい」と回答された方にその理由をお尋ねします。

その他の欄に書かれた意見

性別	年代	意見
男性	50歳代	◆下水の処理が全然できていない。 ◆駐在所もない、街灯もろくに付いていない。

**問 11** 川崎校区は以前(10年前)と比べて住み良いまちになりましたか。

その他の欄に書かれた意見

性別	年代	意見
女性	40歳代	◆災害後、雨の時期になると毎年不安になる。想定外の災害が起こった時の備えが必要。
男性	60歳代	◆川崎校区で町内対抗ソフトとかやっていたが、今は人員の問題で交流がない。
男性	60歳代	◆校区の行事が少ない。
男性	70歳代	◆車道沿いに歩道ができ歩きやすくなりました。

**問 12** あなたは今お住まいのところに住み続けたいですか。

その他の欄に書かれた意見

性別	年代	意見
女性	60歳代	◆ずっと住むと思うが、他へ移りたい気持ちもある。

**問 13** 川崎校区で生活を維持する上で、不便や不安を感じることは何ですか。

その他の欄に書かれた意見

性別	年代	意見
女性	40歳代	◆高齢者が増えるばかりで、若い世帯が入りにくい土地柄。地域での世話事や神事が多く、若い世帯に負担が増えている。
男性	50歳代	◆高齢者独居世帯の増加。
女性	50歳代	◆防犯対策。
男性	60歳代	◆10年後、空き家・放棄農地など諸々の問題が多く出てくるのでは。各行政区の年代別人口推移表等を作成し、対策をした方が良いのでは。

**問 14** あなたが理想とするまちがあれば自由にお書き下さい。

性別	年代	意見
男性	60歳代	◆ふれあえる楽しいまち。 ◆子どもが安心して遊ぶ場所、高齢者や障がい者が安心して過ごせるまち。
男性	60歳代	◆行政区として今後10年間の内に、何をどうやって行くかの議論をした方がいいのではないかと思う。その議題を川崎校区としてどうするか考えたらと思う。
男性	60歳代	◆子どもから大人までの行事もいいが、年代別の行事もあった方が…。
女性	60歳代	◆豊かな心を育てる町、えがおの町、最小限の生活が整う町(病院、スーパー、交番など)
女性	60歳代	◆川崎校区の特産を生かした生産業(特産品を生み出し、活気を生む)。
女性	60歳代	◆若い世代の家族が生活しやすく、住みやすいまちであってほしい。
男性	70歳代	◆高齢者も安心して住めるまち。道路(交通)も整備され、買物が便利で安心されるように。

**問 15** これからの川崎校区のまちづくりについてご意見・ご提案があれば自由にお書き下さい。

性別	年代	意見・提案
女性	20歳代	◆静かで住みやすいと思いますが、近所付き合いが多すぎると思います。今の時代は夫婦共働きが普通なのに、何かあるたびに出不いといけないのは大変です!!!川崎校区を活性化したいのならば若い人達が住みやすい、帰ってきたいまちづくりをしないといけないと思います。風習も大事ですが、臨機応変にしないといけないと思います。
女性	30歳代	◆買物がもっと便利になるとうれしいです。 ◆古賀製茶の前あたりに信号があると助かります。道を渡れずにいるおばあちゃん、子どもをよく見かけます。
女性	30歳代	◆人口の減少、高齢化の現実を見据えたまちづくりを希望します。やりたい、続けていきたいとの気持ちは理解できますが、若者が減りその若者も自分達の仕事、生活で精一杯です。今までやってきたこと、高齢の方は言いますが時代が違います。地域行事のために仕事を休みますと言えるような時代ではありません。校区の古い考えを知らずに市外から来ましたので、その点では失敗です。自分の子には川崎校区ですと居住してほしいとは思いません。
男性	40歳代	◆これから育っていく子ども達が残ってくれる仕事があり、魅力ある川崎校区になってほしい。
男性	40歳代	◆山内に住んでいますが、花火大会の存続がいつもテーマにあがるようですが、寄付を募ってまで行う必要があるのかに疑問はあります。地域の活性などは大事だとは思いますが。
女性	40歳代	◆子どもの数が減り、資源回収をするのが大変になりました。数十軒の世帯数分をたった2軒で回らなくてはいけない時もありました。各世帯の回収をしていると、とても時間がかかるので可燃ごみ回収場所へ出して頂くように協力して頂くなど、改善を要望します。 ◆高齢者世帯が増え、地域の出事なども限られた人になりがちです。ラジオ体操や健康づくり、多世代で交流出来る行事などで、活気のあるまちづくりなどがもっとあると良いと思います。

女性	40歳代	<p>◆小学校の子ども減少で、廃品回収等厳しくなっている。子どもが増えて活気づけばよい。</p> <p>◆燃えるごみの指定場所が少なく、高齢者の方が増えて行く今後は、捨てに行けない人が増えていくと思う。子どもが減っていると言うことは、高齢者だけの時代がこの地域も増えていくことになる。したがってそれに向けての対策を早くから計画していく必要がある。</p> <p>◆今後認知症の方が増えていく事が予想され、地域ぐるみで連携協力の体制を作っていく必要がある。一家族だけでは到底現実には解決できないので、誰もが助け支え合う地域住民の目配り、気配りが必要となっている。</p> <p>◆八女市の他地域の方から、グラウンドゴルフ活動が山内はないが何故と言われた。高齢者活動を積極的に働きかけ、老人にやる気ができるまちづくり(子どもたちとの交流会等)も必要かと・・・。</p>
不明	40歳代	<p>◆以前は愛好会の活動など世代を問わず年2回ほどの交流があったが、今は全くなく、隣組が違えば、年代が違えば違うほど話をする機会はなく、顔すらわからない。せめて、年1回は同地区、長野に住む人達が集まる様な(楽しめるような)行事が出来れば良いと思う。又、行事があっても回覧で回るだけで、他の人達も参加しないのなら・・・と言う思いになってしまう。(隣組長が一軒ずつ訪ねていた)</p>
男性	50歳代	<p>◆まちづくりの存在すら認識されておられない方が多数だと思います。町内の様々の行事・お世話事・出事等を見ていると、理解されている方とそうでない方の温度差が感じられます。校区あるいは町内を活性化し魅力ある、夢のあるまちにしようとの思いがあるならば、リーダーだけではなく校区民・町内の一人一人がしっかり自覚し、自らが行動する強い心構えが必要です。</p>
男性	50歳代	<p>◆転入者への無償奨励金の検討。</p> <p>◆地域内の道路整備。</p> <p>◆街灯の増設。</p> <p>◆下水対策。</p> <p>◆集合浄化槽の検討。</p> <p>◆行政からのサービスを実感できる地域をつくってほしい。</p>
男性	50歳代	<p>◆若い人が地元に残って、安心して働ける雇用の場を(企業誘致ではなく)地元産業が有機的に連携して、みんなが豊かに暮らせる状況を考える。</p> <p>◆子どもから年輩の人達が、一堂に集まって様々な交流のできる施設を思いきって建て、町外の人々も利用できるような場及び「道の駅」的な場をつくりあげる。</p>
女性	50歳代	<p>◆災害後まだ道路の修復が進まず交通に不便の所が多いので、早く復興して住み良い町になったら良いと思います。</p>
女性	50歳代	<p>◆水害以降、ここに住むことがいつまで出来るかと不安を持ちながら暮しています。災害の心配なく暮らせれば、子の代、孫の代へと受け継いでいけるはずの土地もあちこちで空き地・空き家になっているのが長野の中でも目につきます。それと皆の課題ではありますが、八女市全体の人口増加につながる何かを見つける、作りだすことを早く行動に移せる話をする必要があると思います。</p>
女性	50歳代	<p>◆店や工場等の誘致をして頂いて、空き地・空き家等の有効利用につなげていただきたいと思います。段々と寂しくなっていく川崎校区に活気が戻ってほしいです。</p>
女性	50歳代	<p>◆水路について、地盤が下がり穴が多くある。</p>
不明	50歳代	<p>◆今からは子どもが少なくなり、川崎小学校が忠見小学校との合併もありうると思う。また、もう少し宅地開発に力を入れたらと思う。</p>
男性	60歳代	<p>◆車社会で危険度が増す中、子どもが伸び伸び遊べて親子で楽しめる場所。</p> <p>◆図書館の整備、色んな本が読めるように。</p> <p>◆スポーツが楽しめる場所。</p>

男性	60歳代	◆地域が活性化していくような様々なイベントを行っていく、例えば昔からあったような伝統芸能のようなものを今の若い人たちが、積極的に取り組んでいくような事、及び子育てが十分にできるような環境の整備をやっていった方が良いと思う。
男性	60歳代	◆今後10～20年は、高齢者が益々多くなることが予想され、各行事、各地域活動、各寄り合い等でも若い人達と高齢者との間に溝ができる可能性が考えられます。高齢化社会を徐々に見越した活動を考えて、行事や活動に支障ができないようにして行ってもらいたいと思います。そのためにも、問14に書いた意見(年代別の行事・・・)も1つの方法かなと思います。
男性	60歳代	◆防犯灯の設置の増設(特に明るい物)をお願いします。
男性	60歳代	◆若者も参加できるスポーツを(ソフトボールなど)。
男性	60歳代	◆高齢者、子どもが安心して住める地域にしたい。 ◆若者が働く場所を近くに確保してほしい。
男性	60歳代	◆校区内に市議会議員がいなくて市政に声が届かない。 ◆町内の行事は役員だけに押しつけず、町民みんなで協力してやる。人口減で・・・。
女性	60歳代	◆地域の付き合いよりも、家庭中心の生活の暮し方に重点が置かれているように思う。
女性	60歳代	◆今後益々進んでいく高齢社会に向けて、高齢者が気軽に集える宅老所のような施設(公民館の開放でもよい)や、グラウンドゴルフの練習場のような場所がほしい。
女性	60歳代	◆山間部の田畑、竹林、雑木林が氾濫している。土地を切り開き、低湿地を埋め立て明るい丘陵を求む。二町二村も加わり大きな八女市となった今、川崎校区は名実ともに八女市の中心部となった。大きな公園を作るも良し、市役所や総合的な体育施設、美術館などの文化施設を造るも良し、子どもから高齢者まで皆がいつでも集える場所をつくって、豊かで、ゆとりある心を通じ合える空間をつくっていききたいものだ。
女性	60歳代	◆人口を増やす様、対策をして下さい。 ◆空き家対策を！家を崩したら固定資産税が上がるとの事で取り壊さない空家が増える。そうすると虫がわき、ねずみやシロアリは近所まで広く増え始める。
女性	60歳代	◆校区外の方から山内は大きいお宮2つもあるのに何も無いなんてと言われる。 長野はお正月に、宮地嶽神社参拝等町内全体で行われている。柳島はお潮井取りや十七夜等町内をあげて行われてる。山内町内は当番制で水天宮、天満宮等行われているが、町内みんなで行い組めば、これだけ大きい天満宮の年末年始(31日、元旦)の参拝者も、もっと参られる方も多いのでは。
女性	60歳代	◆現在の時勢として、地方が過疎になってきているのでそれは止められないけれど、もともと八女にずっと在住していた私にとっては、なんとしても生活が成り立つような地域づくり(祖先から)、まちづくりをしていきたいと思う。(経済的に生活できるような環境)
女性	60歳代	◆今河川工事があっていますが、そこにアーモンドの木を植えて花見が出来る様にしたらいいのではないのでしょうか。アーモンドの木は桜とよく似た花が咲きます。めずらしいので、見に来る人がいるかも知れません。 ◆小さい子どもが安全に遊べる公園も無いので作ってほしいです。年寄りが散歩していて、途中で時々ベンチがあれば休憩しながら散歩も楽しむ事が出来、人が集まり、おしゃべりが出来る場所(公園)もほしいです。
女性	60歳代	◆校区内、町内の至るところで、安全または治安上必要な街灯・防犯灯があればと思う場所が多数あると感じます。費用の問題があるかと思いますが、出来る限りで結構ですので増設してほしいです。

男性	70歳代	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆他町内に比べ夜が暗い、街灯が少ない。</li> <li>◆高齢化社会を見据えて、昔の行事を引きずらないで。</li> <li>◆道路の整備、他町内より遅れている。</li> </ul>
男性	70歳代	<p>◆いろいろな行事の中で、花火大会もごさいます。この町内で全部の費用を賄うことが出来れば別のごさいますが、花火を上げる為には、多額の寄付金を募ることになります。寄付金を待っている人は皆無ではないでしょうか？その様な観点から、寄付金を相談に行かれる方も大変ではないでしょうか？又、校区内の出事は他の校区と比較して多過ぎる様な感じがしますが如何でしょうか。</p>
男性	70歳代	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆安全安心で男女問わず、楽しく住み良いまち。</li> <li>◆多くの成人が仕事ができるまち。</li> <li>◆女性も仕事ができるまち。</li> </ul>
男性	70歳代	◆多数の人がまちづくりに関心を持って参加されるよう、役員の方をお願いします。
男性	70歳代	◆食品や日用品の店が近くにあってほしいです。
男性	70歳代	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆大型商業施設の誘致と農地規制の撤廃。</li> <li>◆市のハコモノの建設促進。</li> <li>◆西鉄バスの乗り入れ。</li> </ul>
男性	70歳代	<p>◆少子高齢化が長期にわたって予想されることを思うと、いずれ川崎小学校の児童数も減少することは間違いのないところだ。そうなれば他の小学校と合併統合も予想され、川崎小学校単独での存在は困難になる。折角の小学校の施設を無駄にしない為には、児童数の減少とは逆に高齢者の数は益々増加していく事は間違いなく、高齢者関連の施設は不足していく。その為には、小学校を福祉関連の施設に改善する必要がある。医療、介護、給食、その他関連事業が見込まれ、夢のある高齢者用福祉施設の実現になると思うが、どうでしょうか？</p>
女性	70歳代	◆人のことより、自分がみなさんに迷惑をかけないよう思っています。高齢でも集落の出ごと、進んで出席してほしい。
女性	70歳代	◆他地区に移動せず、末永く楽しく暮らして行きたいです。向う三軒両隣り、とても仲良くしています。
不明	70歳代	◆声かけ運動。
不明	70歳代	◆自然の中に歴史があり、誇りをもって山内地域が一体となって、住民が助け合う町内を作っていきたい。
不明	70歳代	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆山、畑、遊んでいる農地が多く、若い人は便利のよい住み良い地域に移り住み、残るは老人ばかり。遊んでいる土地を利用する方法はないのでしょうか？</li> <li>◆環境がよく経済が発展する街(町)をのぞみます。こんな地域で生活できたら幸せ……。</li> </ul>
女性	80歳以上	◆校区の交流、個人的に関心がない。
女性	80歳以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆川崎校区は、私たちの幼き頃は商業の盛んな村でした。昭和初期の山内は、軒別にお店ばかりでした。何でも山内で揃う場でした。なのに、すっかり一変して淋しい山内になってしまったのが残念です。時代の移り変わりも余りにも変わったのが、とても淋しく感じます。</li> <li>◆童男山の伝説を通じて、川崎校区を有名に育ててほしいと思います。</li> </ul>
女性	80歳以上	◆老人家庭には日用品の店もないし不便。

不明	不明	◆皆さんが町で会えば快く挨拶する町になれば良いと思う。
不明	不明	◆今は川崎校区も大都会と同じように、近所付き合いがないので色々な事件が起きやすいので、皆でオアシス運動などを定着してほしい。
不明	不明	◆平成24年九州北部豪雨の復興を早めに完了させ、皆さんが心配しないで生活作りをするために、力及び知恵を出し合いみんな仲良く和気あいあいのまちをつくる様にしたら良いと思います。特に川崎校区は住む所としては非常に良いところなので、行政(市)を動かし若い人向けの住宅補助対策などをして人口増につなげる様にしてもらえたらと思います。
不明	不明	◆少子高齢化が進み、人口が減少しています。過疎化が益々進む事が明らかです。住宅の整備が必要、川崎校区は農業が中心となっていて、住環境整備が他の地区と比較して遅れている。
不明	不明	◆小学校も年々入学してくる子どもたちは減少し、いつ廃校になるかわからない。早急な対策を。
不明	不明	◆歴史遺産を生かし、他都市との交流を深めて活性化を図るまちづくりをしていただきたい。
不明	不明	◆高齢者になり、事件・事故等でニュースを賑わっているが、安心して住めるまちでありたい。
不明	不明	◆校区民が交流を通じて、お互いに支え合う楽しいまちづくりを。
不明	不明	◆すべての面において暗い場所、暗くなる場所が無く、明るく元気がもらえる場所を。
不明	不明	◆中間点の観光等が増加する活動が盛んになれば、中間点の川崎校区に立ち寄る。
不明	不明	◆大型のスーパー銭湯(民営)が誘致できたらいいですね。
不明	不明	◆矢部川と星野川に挟まれて、雨の多い時期になると虫なども結構多く見かけます。そこで、消毒をしてほしいと思います。
不明	不明	◆役員は活動的、でも末端まで届かない。
不明	不明	◆犬の放し飼いはやめてほしい。敷地内に入り込み尿やフンをしている。

# 川崎校区地域振興計画

企画・編集 川崎校区まちづくり協議会

川崎校区地域振興計画策定委員会

平成 28 年 3 月発行

◆この計画書は八女市地域づくり提案事業として、市の補助金を受け作成しました。